

令和6年度自己評価計画書（中間評価）

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び2学期以降の取り組み（改善策など）
1. 不断の授業改善により、生徒の主体的・対話的な学びを推進し、専門職にふさわしい実践力を身につけ、国家試験全員合格を継続する。	① 事例検討、発表、考察などの「主体的・対話的な学び」を取り入れることにより、思考力・判断力・表現力の向上を図る。	「授業は知識・技術、新しい見方・考え方が身に付き、自分の力になっている」と評価した生徒の割合が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満 である。	授業は知識・技術、新しい見方、考え方が身に付き、自分の力になっていると評価した生徒の割合 1年生 93.4% 2年生 90.0% 3年生 87.8% 専攻科 90.5% 全 校 89.3% 評価 A	全校の肯定評価は昨年度の最終評価より1.8%増加した。生徒が主体的に思考する場面を意図的に取り入れている。生徒に「わかった」「できた」という達成感を感じさせる学習活動を継続していく。今後、1・2年生では実社会との関連を示し、学習の必要性が実感できる授業を展開する。3年生では、多様な資料や事例を活用し、生徒が気づかない新たな視点を提示し、知的好奇心を喚起する。
	② 協働学習や疑問点を自ら解決する場面を通して、主体的な学習態度を育成する。	「分からないことは質問したり、調べたりして理解するようにしている」と自己評価した生徒の割合が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満 である。	分からないことは質問したり、調べたりして理解するようにしていると自己評価した生徒の割合 1年生 95.4% 2年生 92.2% 3年生 85.4% 専攻科 97.3% 全 校 92.8% 評価 A	全校の肯定評価は昨年度の最終評価より1.4%増加した。生徒同士で課題について話し合ったり、教え合ったりする、生徒が主体的に活動する場面を意図的に設定している。今後、1・2年生では生徒の実態に応じた課題提示や発問をする。3年生では、習得した知識を活用し、主体的な思考を促す場面を積極的に設定する。生徒の知識の習得状況を把握し、論理的に思考し表現する課題提示を行い、主体的な学習態度を育成する。
	③ 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	〈高校生〉 偏差値40未満の生徒が A 0人 B 1～2人 C 3～4人 D 5人以上 である。		

		<p>〈専攻科1年生〉 偏差値42未満の生徒が A 0人 B 1人 C 2人 D 3人以上である。</p> <p>〈専攻科2年生〉 偏差値42未満の生徒が A 0人 B 1人 C 2人 D 3人以上である。</p>	<p>〈専攻科1年生〉 7月看護模試での偏差値 42未満 1名 評価 B</p> <p>〈専攻科2年生〉 7月看護模試での偏差値 42未満 1名 評価 B</p>	<p>〈専攻科1年生〉 7月に実施した看護模試の結果は偏差値42未満の生徒は1名であった。個々の学習状況を分析しつつ、個別指導を強化する。</p> <p>〈専攻科2年生〉 5月実施の模試、7月実施の模試共に偏差値42未満の生徒がそれぞれ1名である。個々の学習状況を分析しつつ、グループ学習を早期より取り入れ同時に個別の指導も強化していく。専攻科2年生全体の偏差値の推移は55.4から57へと上昇しており、生徒の国家試験に対する意識は高まりつつあると考える。</p>
④	<p><1年生> 合格を目指して学習する習慣が身につくように、SH時に行われる漢字テスト、英単語テストに合格できるように指導する。</p> <p><2年生> 国家試験合格に必要な基礎力を身につけるために、毎週介護福祉検定2級レベルの小テストを実施する。</p>	<p><1年生> 小テストに80%以上合格している生徒の割合が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満</p> <p><2年生> 小テストに80%以上合格している生徒の割合が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満 介護福祉検定2級に合格した生徒の割合が</p>	<p><1年生> 小テストに80%以上合格している生徒の割合は0% 評価 D</p> <p><2年生> 小テストに80%以上合格している生徒の割合が37.5% 評価 D</p> <p>12月の検定後評価する。</p>	<p><1年生> 1学期に小テストを7回実施した。生徒1人ひとりが、6回合格する必要がある。しかし、その条件を満たした生徒は0人である。 2学期は「目標に向かって努力すること」「努力の結果が合格につながる」と体得できるように、まずは英単語テストに向けて、事前課題を設定し取り組みを強化する。</p> <p><2年生> 1学期に福祉の小テストを4回実施した。全ての小テストに合格する必要があった。全て合格した生徒は6人/16名中(37.5%)である。また、毎週、小テストを実施することができなかった。基礎力向上、福祉検定の合格に向けて学習意欲の向上を目指すために、毎週小テストを実施できるように計画を再検討する。また、小テストの合否による個別課題を設定し、「合格する」ために勉強する習慣が身につくように指導する。</p>

		<p>A 100%</p> <p>B 90%以上</p> <p>C 80%以上</p> <p>D 80%未満</p> <p><3年生> 介護福祉士国家試験全員合格に向けて、小テストや個別指導を行う。</p>	<p>A 100%</p> <p>B 90%以上</p> <p>C 80%以上</p> <p>D 80%未満</p> <p><3年生> 国家試験演習等で個人得点率が65%未満の生徒が</p> <p>A 0人</p> <p>B 1人</p> <p>C 2人</p> <p>D 3人以上 である。</p>	<p><3年生> 7月末実施の国家試験演習で個人得点率が65%未満の生徒が9人</p> <p>評価 D</p>	<p><3年生> 平均点、最低点ともに上昇傾向が認められる。反面、そのことにより現状に満足している生徒がいる。再度、合格ラインを明確に示していく。2学期以降は、グループ学習を強化し、教え合い、学びあうなかで合格ラインを常に意識できるようにしていく。並行して、得点率が低い科目の振り返り学習を行う。</p>
--	--	---	--	---	--

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び2学期以降の取り組み(改善策など)
2: 生徒会活動・部活動、ボランティア活動などを活性化させ、心身の健康とレジリエンス涵養を図り、活気ある学校づくりを推進する。	① 体育祭や球技大会などの生徒会活動を縦割り班で実施することで、生徒同士の交流を図り、活気ある学校作りを推進する。	縦割り班活動を通じて、他者と協働して困難を乗り越える力がついたらと答える割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。		体育祭と球技大会を合わせたスポーツフェスを11月に実施予定。実施後に評価を行う。
	② 生徒のセルフケア促進に向けて、生活習慣、発達段階、災害フェーズを踏まえた活動を実施する。	活動が自分の今後の学校生活に活かされると回答した割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 である。	活動が自分の今後の学校生活に活かされると回答した割合が 97.9%	評価 A

	<p>③ 「田鶴浜高校いじめ防止基本方針」に基づいて、いじめのない学校作りを推進する。</p>	<p>生徒アンケートで「互いの人格を尊重し、いじめを絶対に許さないという意識」について、「大いに高まった」と「高まった」の回答が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満 である。</p>	<p>夏休み明けアンケートの結果、「いじめを絶対に許さないという意識」が「大いに高まった」と「高まった」の回答の割合が 97.2% A評価</p>	<p>「いじめを許さないという意識」が昨年度の97.7%から97.2%と0.5ポイント下がった。「大いに高まった」については67.3%と前年度から11.4ポイント上がっている。「意識が高まった」きっかけを講演会とする回答が最も多く、講演後の感想文を見ても外部講師の講演は生徒の意識を高める効果になっていると思われる。理由の二番目には授業と回答しており、自分の行動を振り返るなどどのような行為がいじめとなるかを再確認させることができた。今後も相談課と連携を取りいじめの未然防止に努める。</p>
--	---	---	--	--

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び2学期以降の取り組み(改善策など)
<p>3) 本校の特色ある教育活動や、地域の医療・福祉を支える人材の必要性等の広報に工夫を重ね、志願者の増加を図る。</p>	<p>① 体験入学、学校説明会等の各種説明会の内容を充実させるとともに、中学生・保護者の参加人数の増加を図り、本校の教育活動とその成果の広報を強化する。</p>	<p>参加者数が、昨年度より A 上回った。 B 同程度だった。 C 下回った。 D 大きく下回った。</p>	<p>学校説明会(7月) 昨年度より 10名程度減少 評価 C 体験入学(8月) 昨年度より 10名程度減少 評価 C</p>	<p>中学生・保護者、進路担当者に、学校説明会、体験入学の開催案内をしたが、参加者数はともに昨年度より10名程度減少した。 学校説明会、体験入学参加者にアンケートを実施した結果「本校の理解が深まった」に対する肯定評価は100%だった。今後も各種説明会の内容を充実を図る。学校説明会(11月)、オープンキャンパス(12月)の開催を予定している。参加者増加に向けての広報活動を強化する。</p>

	<p>② 本校の特色ある学校行事の取り組みや、衛生看護科・健康福祉科生徒の活躍を地域に向けて発信する。</p>	<p>本校は十分に情報提供をしていると答える割合が、 A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満</p>	<p>7月の保護者アンケートの結果、本校は 十分情報を提供している 25.4% 情報を提供している 65.4% 情報がやや少ない 7.7% 情報が不十分 1.5% 評価 D</p>	<p>「十分情報を提供している」「情報を提供している」の肯定評価を合わせると90.8%である。特に「情報を提供している」と答える保護者は5月アンケート時の60.0%から65.4%に増加している。しかし、「十分情報を提供している」との回答割合は25%台と横ばいであり、一部「情報が遅い」や「求める情報提供がない」等の意見もあることから、スピード感を持って保護者が満足する情報提供につとめ、「十分情報を提供している」と答える保護者の割合を増やしたい。</p>
--	---	--	---	---

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び2学期以降の取り組み(改善策など)
<p>4 教職員・生徒のICT機器の利活用を進めるとともに、業務の平準化・ワークライフバランス意識の向上により多忙化の解消に努める。</p>	<p>① 時間外勤務を減少させるため、ICT活用の定着を図りながら業務の効率化を進める。</p>	<p>具体的な取組を積極的に進め、一月あたりの時間外勤務時間が45時間未満の教員の割合が、 A 75%以上 B 65%以上 C 55%以上 D 55%未満 である。</p>	<p>4～7月までの時間外勤務時間平均が45時間未満の教員の割合は 76.5% 評価 A</p>	<p>時間外勤務時間が60時間を超える教員が毎月4人程度いるが80時間を超える教員は0人であった。 年度当初よりICTの積極的な活用により業務内容の効率化を推進しており、働き方改革を念頭に置いて時間外勤務の減少に取り組んでいきたい。</p>